



地域と共生する
FFG
Special Interview

福岡県製材業の中心を担う「うきは市」 国産材需要増の今、利用拡大を目指す

総面積の45%が森林を持つ福岡県において最も製材業が盛んなのが、うきは市です。うきは市は古くから林業や製材業が発展し、現在も製材業者が県内で最も多い地区となっています。そこで福岡県木材組合連合会の平川辰男会長に福岡県の製材業について、また画期的な取り組みを行っている企業の代表者にもお話を伺いました。

福岡県の製材業を支えてきた 浮羽地区

福岡県うきは市の総面積は1万1,746ha、そのうちの森林面積は約半分にあたり、ほとんどがスギやヒノキの人工林となっています。浮羽地区は江戸幕府の天領でありスギの産地であった大分県日田市のすぐお隣で、その影響を受け昔から林業が盛んに行われてきました。

浮羽地区では、日本の近代化とともに大正時代ごろから製材所が次々と開業し、戦後は福岡・北九州という二大都市の需要を受け、ピーク時には100社ほどありました。しかし、その後は安価な外材の輸入、日本全体の景気の低迷などを受け、現在は18社になっています。福岡県全体を見ると製材業者の数は、この浮羽地区が最も多く、次いで八女地区や大川地区、その他の地区ではわずかとなっています。

最近では世界的な新型コロナウイルスの流行、ロシア・ウクライナ紛争、欧米での需要の拡大などから、「ウッドショック」

と呼ばれる木材の不足、価格高騰が問題となっています。その中で国産材の需要が増しているものの、木材は建築材として使用するには最低でも50〜60年の年月を要するため、急速なニーズに対応できない状況となっています。一方で、SDGsの実現に向けて木造建築の良さが見直され、木材の人氣が高まっています。

木材のさらなる 利用拡大を目指して

県内20の組合が集まる福岡県木材組合連合会は、これまで木材の利用拡大を目的に九州、さらには全国木材組合連合会とともに、林野庁と情報を密にしながら業界の問題解決に当たってきました。自然の材料である木材には、燃える、腐る、反り曲がる、不均一といった特徴があり、それらに対して常に新しい技術を用いながら建築材として利用しやすく加工してきました。

また、業界全体として後継者不足も深刻です。そのためICTを用いた

最新の機械を導入するなどの自動化も進めています。販路拡大においても市場に任せるのではなく、独自にマーケティングをしっかりと行い県産材の良さをアピールすることも必要になっています。それぞれの得意分野を強化しながら、浮羽地区では製材業18社が協力し、これからも継続・発展できるように努めていきます。



ひら かわ もく ざい こう ぎょう
株 式 会 社 平 川 木 材 工 業

ひら かわ たつ お
平川 辰男 代表取締役会長

福岡県木材組合連合会会長



確かな技術で続く100年企業 木材の可能性を拓く新工場も完成

1924年5月に創業した当社は、来年2024年に100周年を迎えます。私は3代目に当たり、現在は5代目の平川典秀が社長を務めています。2代目の時に現在の木材加工販売に進出、そこから時代が求める新しい分野や技術に、常に挑戦し続けています。

私たちの強みに、確かな技術があります。社員は「木材乾燥士」「木材加工用機械作業主任者」「木材接着士」といった専門資格を取得しています。国産材のスギ、ヒノキについては、地元はもちろん、九州で80パーセント程度を調達しています。

昨今の嗜好の変化から、ユーザー目線の品質を意識

した、フローリングなどの内装材を中心とした無垢材のスギ、ヒノキの加工材を提供しています。木材の加工品を通して、ユーザーの皆様には木材の良さを感じていただきたと思っています。

新しい挑戦として、2022年12月に木構造を採用した第3工場を新設しました。ここには高精度の加工に対応できる5軸の3Dマシニングセンター「PRO-MASTER」を導入しています。この第3工場の大きな特徴は三角形のトラス構造の天井をはじめ木構造で出来ていることです。木材加工の会社であるにもかかわらず、多くの工場と同じように第1工場や第2工場は鉄骨造りでした。そこで

新たなチャレンジとして住宅建築の標準材で工場を造ってみようと思いついたのです。コストの面などまだ研究の価値はありますが、木材は軽量でメンテナンスがしやすいというメリットがあります。今後、このような事例が増えることで、木造建築の可能性が広がるのではないかと期待しています。

私は福岡県木材組合連合会会長を務めていることもあり、「木材の価値を上げることを」を夢に掲げています。これが実現すれば、林業を含めた木材産業の持続が可能となります。現在の住宅建築では木材は見えない部分に多く使用され、質よりも価格の安さに流れがちです。都市部のマンションやオフィス、店舗の内装材として木材が見直されることで、木材の多様な商品も生み出されていくと思います。



ます。若い人たちが「この業界に入りたい」と思える魅力的な産業に成長させていかなければと感じています。

株 式 会 社 マ ル ジ ョ ウ

ひら かわ こう き
平川 孝紀 代表取締役

浮羽木材協同組合理事長



大規模な設備投資で省力化を実現 製材所のイメージを変えていく

当社は1957年に創業、私は2代目となります。一級建築の構造材から造作材などの住宅一棟分の材料、二次加工のプレカットや乾燥材出荷も手掛けています。特徴としては18cm未満の小径木や角物といった小ぶりの木材を多く扱っており、また、ス

ピードを重視するため機械化、IT化を積極的に進めています。

最近の住宅建築で使用される木材は見えないところのものが多いので、当社で扱っているのはそのような製品です。そのためコストとスピードを重視。全国に販売網を設けています。最近では無人で製材ができる「ノーマンツインバンドソー」も導入しました。

ボタン一つで製材ができるようになったことは、非常に大きいですね。

父の跡を継ぐため私が1989年に当社に戻ってきた時は、ちょうど製材業がピークを迎えた時でした。バブル経済が崩壊し、1991年ごろから多くの製材所が閉鎖。その頃から人手不足を見据え、機械化・IT化による省力化を進めてきました。

幸いにも全国に向けて営業すると「浮羽はスギで有名な日田のお隣にあります」と説明がしやすい土地柄です。その地の利と築いてきた人脈、そして省力化を進めることが功を奏したと思います。

私は浮羽木材協同組合の理事長も務めています。

かつては100社あった製材所も、今では18社です。なんとか全社で協力して、浮羽地区の製材業を守っていききたいと思っています。しかし、大きな課題は、どこも人手が不足していること。だからこそ今後どのように製材所を経営していくべきかを伝えることが、私の使命だと感じています。

大型の機械の導入には資金も必要ですが、今は各種補助金も活用できます。知ってもらうために、まず当社は情報も工場もオープンにしています。「うちはこのようにやっています」ということを、組合の製材所はもちろん、一般の方にもぜひ見ていただきたいとご案内しています。製材所というと昔はいわゆる「3K」と言われていましたが、今は機械化・IT化も進み、クリーンな環境も整っています。製材所

のイメージを変えていくことも、今後の浮羽地区の製材所の継続・発展に欠かせないと思います。





国産材の良さを広めるために 「木」の魅力に触れる機会を

もともと父は、木材を山から運搬する仕事をしていました。父はその材木を運び込む製材所の仕事に興味を持つようになり、1971年に創業。初めての挑戦で紆余曲折があったものの、私が2代目となり、今日に至っています。

当時は住宅建築ラッシュで材木のニーズも高く、当社ではヒノキの化粧材を多く手がけていました。しかし、次第に住宅の建築構造が大きく変容し、多くの人が住まいの中で木材の質感を感じる機会が減っていったのです。そのような中で、大きな角材や板材を大工さんが目利きする市場も減少し、次第に需要に合わせたプレカット加工した木材の需要が高まって

きました。当社では、より安定した品質を求め、最新の高周波高温蒸気式複合乾燥機を導入。工場は、機械等級と人工乾燥区分でJAS認証も取得し、2019年11月にプレカット事業を開始しました。

最近では外材の輸入減少から国産材に注目が集まっていますが、木材そのものの持つ魅力を伝えていかなければ、木材を使った住宅そのものがなくなるのではないかと危惧しています。

そのような思いからオープンしたのが木をテーマにした体験型の展示場「木ん家」です。薪ストーブメーカーの代理店になったことから、薪ストーブに合う木を感じる住まいを実際に見てほしいと、木を

ふんだんに使ったこの店舗を完成させました。薪ストーブの実演はもちろん、木工体験や薪サウナ、酸素ボックスと、木のぬくもりを感じながら様々な体験ができるスペースとなっています。壁には当社の集成材の技術を活かした木目の壁を基盤の目のように貼っており、木の持つ可能性を感じていただけるのではないのでしょうか。特に最近のサウナブームもあって、ウッドデッキのある薪サウナが人気で、予約も多くいただいています。

私はうきは市商工会の会長も務めています。どの分野にも限らず、既存の概念に囚われることなく新しいことに挑戦することは、うきは市の発展につながると思っています。製材業として時代のニーズを的確に捉えた製品づくりはもちろんですが、この

「木ん家」という挑戦によって、新しい賑わいやチャンスが生まれていくことを、率先して示していければと思っています。



「木ん家」という挑戦によって、新しい賑わいやチャンスが生まれていくことを、率先して示していければと思っています。



浮羽稲荷神社にて。左から堤木材代表取締役、マルジョウ平川代表取締役、平川木材工業平川代表取締役会長、福岡銀行荒木執行役員、福岡銀行吉井支店宗支店長

株式会社 平川木材工業

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1401 福岡県うきは市浮羽町朝田572
- 電話番号：0943-77-3185
- 設立：1924年
- 従業員数：55名



株式会社 マルジョウ

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1401 福岡県うきは市浮羽町朝田150-2
- 電話番号：0943-77-2352
- 設立：1993年
- 従業員数：17名



株式会社 堤木材

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1402 福岡県うきは市浮羽町浮羽568-1
- 電話番号：0943-77-4685
- 設立：1971年
- 従業員数：29名



福岡銀行 荒木執行役員県南地区本部長 コメント

江戸時代から林業・製材業が盛んで、福岡県内で最大の18の製材所が集まる浮羽地区。各製材所の皆様は、最新の機器やIT化を推進し、製材業のイメージを大きく変え、後継者不足、人材不足などの課題にも取り組まれています。

バブル経済の崩壊後、外材の輸入、木造住宅の減少、後継者不足などで県内の製材所が減少してきましたが、最近では国の方針やSDGsの観点から、国産材が注目を集めています。

国産材の需要が期待できるなか、木材の魅力が再認識され、その可能性がさらに広がることを期待しております。

